

アドバイザリーボード委員への意見聴取（第1回）結果と対応

行田の「今」

1. 行田の地勢 2. 行田の歴史

【根本委員】

- ・この街には行田市民以外の、周りの街の人たちがワクワクするようなイベントが必要な気がする。少なくとも行田が関東近郊でニュースになるようなことはあまりない。他の地域からの人を呼び込むような、街を挙げてのイベントが年に一度くらいは欲しい。経費や労力は工夫やアイデアで作って込められないか。老若男女、街の人たちの心が映し出される楽しいイベントがあれば嬉しいし、私はそういうイベントのお手伝いをさせていただきたいと思っている。

→ 市では、令和6年度からさきたま古墳公園において、地元埼玉地区の皆さんと協力して、「古墳フェスティバル」の開催を予定しています。今後、根本委員にもご協力をいただけますと幸いです。

3. 行田の現状と課題

【関根委員】

- ・スクールバス内のモニターで毎日「英会話レッスン」を流し続ける。
- ・足袋の町として全国に名を轟かせた歴史を守り、活かす意味でシューズメーカーに狙いを絞り企業誘致をする。
- ・足元つながりでPR。産業振興し、若者の雇用も生む。謳い文句＝「行田は『足許』を固めます！」

→ 今後、施策の実施段階等において参考とさせていただきます。

【長谷川委員】

- ・P5最後の部分、人口減少に歯止めをかけることが大事であることはその通りだが、最近の社会増の傾向を安定的に定着させ、拡大するために、外から見ても魅力ある行田のまちづくりが大事であることをもっと強調して書いてはどうか。
- ・人口減少にはこれからもさまざまな対策強化が継続的に必要と考えるので、「ラストチャンス」（ここで失敗すればあとがない、のニュアンス）と書くのはどうかと思う。「早急に対策の抜本的強化が必要である。」くらいの方がいいと思う。

→ ご意見を踏まえて、表現を一部修正しました。

【深町委員】

- ・長期的な視点で見れば日本に「安全なまち」と言い切れる地域はなく、別の表現（例えば、「比較的自然災害が少ないまち」）の方がいいように思う。

→ ご意見を踏まえて、表現を一部修正しました。

【政所委員】

- ・産業振興のキーポイントとして、人、情報、足（交通含めて）が鍵。
- ・近隣とのネットワークによる交通問題解決計画含め、解決に向けての方針を。
- ・高齢者福祉及びまちづくりには、重層化及び複合化が必須。

→ 産業振興や交通ネットワーク充実については、構想後半の「重点政策」で示したいと考えています。

4. 行田市の人口等データ

【関根委員】

- ・人口減少は他市も同様に抱える課題であると思う。人を互いに引っ張り合うのが根本的解決にはならないと思うが、様々な施策を打ち、活性化、魅力アップすることが必要なこと。

→ 本市の課題を踏まえて、今後重点的に取り組む施策について、構想後半の「重点政策」で示したいと考えています。

【根本委員】

- ・人口減少や高齢化はどの街にもあること。もし行田の街独特の傾向があるならそれを打開する方法を考えることは必要かと思うが、全国的な傾向と同じであるなら、無駄に考え込むよりも全国で取り組んで成功したアイディアを真似て、この街に合うよう修正し最終的に行田型が生まれれば良い。

→ 本市の課題を踏まえて、今後重点的に取り組む施策について、構想後半の「重点政策」で示したいと考えています。

【長谷川委員】

- ・いろいろなデータがわかりやすく、そのまま掲載することを望む。

【深町委員】

- ・P 8、P 9の年齢三区分別人口推移などのグラフの数字が小さかったり、棒グラフの青色と重なるなど読み取りにくい。
- ・P 10の人口増減内訳の図が複雑で何を示しているのが読み取りにくく、説明の文章もわかりにくいので、もう少し簡潔な図と説明の方が良いと思う。
- ・「行田の現状と課題」と関わる主なデータの提示ということであれば、「防災・まちづくり」に関わるデータ（図）を加えた方が良い。「防災・まちづくり」は、基本構想において大変重要な項目と思う。

→ ご意見を踏まえて、P 8～P 10のグラフは色彩を変更しました。またP 10のグラフは2分割し、説明を修正しました。

【政所委員】

- ・全国共通の人口課題と行田の固有の課題対策を明らかに。
- ・全国、日本のみならず、共通する問題を抱える地域との対比。

→ 人口減少は行田市に限らず全国的な課題ですが、本市では県内でも特に減少率が高い状況で、これは地理的な要因も大きいと考えています。こうした課題に対応するための基本的な考え方を、構想後半の「重点政策」で示したいと考えています。

行田の「未来」

1. 行田の将来像

【関根委員】

- ・国道17号の高規格化が、高速道路から遠いデメリットを解消する突破口になることを期待する。
- ・国道17号バイパスと行田駅から伸びる道路の交差点周辺を大型商業ゾーンにして両駅の隔絶感をなくす。中間点にコストコやIKEAが来てくれればなお良し。ここをヤジロベエの中心にする。
- ・物流専用レーンと一般車両レーンを別にしたインターチェンジ化。
- ・両駅周辺の既存店は、個性を生かし、地元感を出した商品構成で差別化する。
- ・古墳フェスは賛成で、定例化することが大事だと思う。
- ・若者カップルの定住促進コピー案＝「行田シティ 二人で暮らせば いいことづくめ」。

→ ご意見は、施策の実施段階等において参考とさせていただきます。

【根本委員】

- ・高齢の人たちが楽しく暮らせる街であってほしい。その「楽しさ」は「楽しく暮らすこと」だけではない。仕事はリタイアしても、まだ「社会と繋がっていたい」と思っているはず。「楽しく」やれるならボランティアなどの社会貢献や奉仕活動も参加したいのと思う。そこに必要なのはキャッチフレーズである。「行田の年寄り元気面白い」など、高齢者たちに行田を代表する人として、労力になってもらう。年寄りが元気で集える場所がある。高齢者の笑顔が絶えない。そんな街であってほしいと思う。
- ・「新しい行田の将来像メッセージ」をリライトしました。

この街で暮らす誰もが、希望に満ちた明日を夢みているはずです。

でも、思うだけではなかなか叶いません。大切なのは、その夢のためにあなた自身が動きだすこと。

「行田市」は、そんなあなたの夢を応援する街として動き出します。

街のすべての人が、幸せでいられるように後押しします。

子どもたちの笑い声が響き渡り、大人たちが笑顔で会話を交わす街。

由緒ある歴史と豊かな自然のなかで「新しい行田」を一緒に作っていきませんか。

漠然と「暮らしやすい街」と言っても、その形態は多種多様です。

この「行田に暮らす人達」にとって、どんなふうに暮らしやすいのか、どうすれば住みやすい街になるのか。それをひとつひとつ語り合い、実現できるように工夫して、あなたの思う「理想の街」を一緒に作っていきましょう。

「行田市の将来」、それはこの街で暮らす人達と作り上げる物語なのです。

→ メッセージの修正ありがとうございました。将来像では、元気な高齢者が地域でのボランティアなどでいきいきと活躍している姿を描いています。市では今後も、高齢者の活躍の場を充実していきたいと考えています。

【長谷川委員】

- ・ユニークなまとめ方で面白いと思う。「将来のまちのすがた」の Scene2 か Scene6 の前後になると思うが、ものづくり大学をからめて、下記のとおり案を作ってみたので、参考にしてほしい。

-
- ・「そういえば、私の友人で上越新幹線を利用している人から、行田市のあたりを通ると新幹線の窓から大学の看板が見えると聞いたけど、本当なの？」

「そう。行田市には大学もあるんだよ。ものづくり大学と言って日本が世界に誇る製造業や建設業などのものづくり産業で働くことを目指す学生が全国から学びに来ているんだ。」

「行田市は子どもや若者の教育に熱心なのかな。」

「そう思うよ。小学校や中学校のことはあとで話すけど、ものづくり大学でも「こども大学行田」をやったりしているんだ。私の子どもも参加して「僕たちが考える新しいまちづくり」を学んだりしたよ。それから秋の学園祭に行って、お姉さんやお兄さんにタイルで作るコースターづくりを教えてもらって、喜んで毎日使っているよ。」

→ ご提案いただいたストーリーは、一部を修正して「将来のまちのすがた」の Scene6 に追加させていただきます。

【深町委員】

- ・P 7 で示された市民の災害に対する意識の低さを考慮するならば、「自然災害が少なく」という言葉を用いない方がよいと思う。(市民に「自然災害が少ないから大丈夫」というメッセージが伝わらない方がよい。)
- ・将来像は、特に「子ども」の存在に焦点を当てながら、行田市が抱えている人口減少などの課題を解決する方向性が描かれており、とてもよいと思う。一方で、地域の活力のためには、高齢者も含め多様な世代が協力することも重要で、「子どもの声が響きわたり」の部分で、「様々な世代が協力し」などとするのも良いと思う。
- ・P 1 8 埼玉古墳周辺は、文化、観光のホットスポットですが、生物多様性のホットスポットとしても貴重な場所です。そこで、「さきたま古墳では、」と「石田三成・・・」の間に「野鳥の種類が多く、四季折々にバードウォッチングが楽しめます。また、」という文章を加えられないか、ご検討いただきたい。バードウォッチングは国内外で関心を持つ人も多く、行田市の魅力の1つになるのでは、と思う。
- ・「ただ米や・・・」という文章は、前文の「儲かっているのかな？」とのつながりが良くないと思いました。削除する方がいいかも知れません。
- ・P 1 9 行田市は低地であるがための自然災害のリスクがあり、例えば、洪水に関する荒川や利根川の河川整備は100年未満の確率年で計算された流量にしか対応できないもので、大部分の地域で今後も洪水や内水氾濫のリスクがある。地震についても、行田市が低地や低湿地にあるがゆえの災害リスクがある。今後も完全に自然災害を防ぐことができないことから、「自然災害の心配はなく安全」というメッセージではない方がよいと思う。国土交通省の流域治水で示されているように、自然災害に対するレジリエンス(回復力)を高めていくこと、つまり高規格堤防の整備などのハードだけではなく、個人や地域で防災力を高めるなどのソフト対策も不可欠である。土地利用構想がこうした災害対応を前提に、適切な開発を進めていくものである、ということが伝わる表現を検討いただきたい。

→ 自然災害に関するご指摘につきましては、文章を一部修正しました。また、バードウォッチングについての記述を「将来のまちのすがた」Scene4 に追加しました。

2. 土地利用構想

【深町委員】

- ・主要河川が中途半端な形で描かれているようですので、行田市の範囲で途中で切れたり、大きく省略しない方がよい。

→ 図を一部修正し、主要な河川を全て掲載しました。

【政所委員】

- ・農地を含め、土地活用は焦点を絞り、手順と計画を更に明確に打ち出せると良い。

→ ご意見は、今後の土地利用に際して参考とさせていただきます。